

編修趣意書

教育基本法との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-164	高等学校	芸術科	美術 I	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	美 I 304	美術 I		

I. 編修の趣旨及び留意点

教科書そのものが美的体験。

教科書全体において、美術の幅広い創造活動を紹介することで、生徒の美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情が育てられるように心がけました。また、中学校美術科で培った美術の基礎的な力から、さらに感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深められることを目標としました。教科書そのものが、美術を学ぶ生徒へのメッセージです。

II. 編修の基本方針

1 美術を学ぶ意味に気づかせる

- 美術は特定の人だけのものではなく、誰もが心豊かに生きていくために必要なものだということを実感できる教科書を目指しました。古代から現代まで世界中で表現されてきた多彩な美術の作品を紹介するとともに、美術を学ぶ意味について生徒に伝える文章や、つくり手の心情や意図を理解するための「作家の言葉」、それぞれの哲学が浮かび上がる「作家の手法」を掲載するなど、創造活動の喜びや意義を感じさせることを意図して編修しました。

2 主題を生むための手がかりが充実

- 授業の中で教科書をより有効に活用できるように、各題材において、作品をつくる際の発想の手がかりや表現のヒントを示しました。また、意図に応じて材料や用具の特性を生かすことができるような資料を充実させるなど、全体を通して表現の参考になる内容を随所に掲載しました。

3 生徒の感性に響く作品群

- 高校生の感性を刺激する現代的な作品やテーマ、アニメーションの原理を伝えるパラパラアニメを掲載するなど、楽しみながら学習を進められるような工夫を随所に設け、美術をより身近に感じられる教科書を目指しました。また、美術作品や文化財などから美や創造のすばらしさを感じ取り、生涯を通して美術文化についての理解が深まることを意図して編修しました。



Ⅲ. 対照表

ページ		図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所		
P.2~4		目次／美術を学ぶあなたへ	○生徒自らが考え、判断し、真理を求めようとする態度を養うために、導入と巻末部分を重視した。美術を学ぶ意味や、美術とは何かについて考える内容を紹介しており、自ら真理を探究する態度の育成へとつなげられるようにした。 ——【第一号】	・P.2~4 ・P.5~7 ・P.88~89		
P.5~7	はじめに	人はなぜ、描き、つくるのだろう?	○多様な方法でつくられた作家や生徒の作例を示し、さまざまな表現に触れることで、個人の価値を尊重する態度を養えるように工夫した。また適宜、作家の言葉を添え、作家の考え方に共感し、尊重しながら、自らの創造性を培えるように意図した。 ——【第二号】	・全体 ・P.6~7 ・P.9 ・P.11 ・P.12 ・P.18 ・P.20 ・P.26 ・P.29 ・P.31 ・P.32 ・P.40 ・P.52 ・P.56~57 ・P.62		
P.8~9		身近なものを描く	 <p>アニメーションディレクター 伊藤有壱 クレイ(粘土)をはじめ、写真や絵、コンピュータグラフィックスなどさまざまな技術を用いたアニメーション作品を制作する。</p> <p>“クレイや人形に「触れる」ことで生じた感覚を基に、生命感をあらわす。動かないものに命が宿る不思議に魅了され、日々、表現を追求しています。”</p>			
P.10~11		植物を描く				
P.12~13		風景を描く				
P.14~15		[作品鑑賞室] 穏やかな光の中で				
P.16~17		[見る・知る・学ぶ] 線遠近法の発展				
P.18~19		版の表現				
P.20~21		想像してあらわす			○見て感じ取ったことを話し合う鑑賞の活動を想定した題材を設定し、個人の価値を尊重し、認め合う態度が培われるように工夫した。 ——【第二号】	・P.14~15 ・P.34~35
P.22~23	絵画・彫刻	不思議な空間をあらわす			○生徒の創造性をいっそう高める目的で、作家が実際にどのような考えで作品をつくっているのかを紹介する「作家の手法」を掲載した。作家の考え方をすることで、個人の表現の価値を尊重する態度を養えることも意図している。 ——【第二号】	・P.11 ・P.31 ・P.47 ・P.57
P.24~25		自己を描く			○題材のテーマや取り上げる作品を通し、生命を尊ぶことや自然を大切にすることを養えるように工夫した。身の回りの動植物や自然の姿をスケッチしたり、写真で撮ったりする活動や、絵画や彫刻にあらわれた生命感を感じ取り表現する活動などを紹介した。 ——【第四号】	・P.8~9 ・P.10~11 ・P.28~29 ・P.56~57
P.26~27		[作家の生涯と作品] パブロ・ピカソ			○伝統と文化を尊重する態度を養うために、「日本画」や「木版画」など我が国で大切にされ、今も息づく伝統と文化を積極的に取り上げた。 ——【第五号】	・P.11 ・P.18~19 ・P.74~75
P.28~29		土から生まれる彫刻	<p>■日本画の絵の具</p> <p>日本画の絵の具には、鉱石などを原料とする岩絵の具、土を原料とする水干絵の具、貝殻を原料とする胡粉などの種類があり、天然素材を原料とするものが多い。顔料自体に接着性がないため、練り剤として膠を用いる。</p>  <p>膠を溶かす 膠は動物性のコラーゲンを濃縮して固めたもので、使用するには液体にする必要がある。一晩中水につけた膠を水ごと膠桶に入れ、火にかけて溶かして膠水をつくる。</p>  <p>顔料を膠で溶く 絵画に顔料と膠水を加えたら、指で溶いて絵の具をつくる。基本的に1枚の絵画に色を溶かし、色を混ぜ合わせることはしない。</p>			
P.30~31		塊から彫り出す				
P.32~33		場所との対話				
P.34~35		[作品鑑賞室] 祭りの喧騒				
P.36~37		[見る・知る・学ぶ] 日本美術の大胆な造形感覚				
				P.6 「人はなぜ、描き、つくるのだろう?」より		
				P.75 「絵の具の特徴を知ろう」より		

ページ		図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
P.38～39	デザイン	文字とデザイン	<p>○暮らしの中で今も息づく文化や、社会の中で目的に準じて機能するデザイン、使いやすさを追求したデザインの例などを紹介することで、自ら生きる社会の中で、主体的に文化の継承や発展を目指す態度を養えるよう工夫した。</p> <p>——【第三号】</p>  <p>バスターミナル スギ 2013年 秋田県秋田市 デザイン: 青葉益輝 【1956～新潟県出身】 木の温かさと風合いを感じさせる木造のバスターミナル。地元の秋田杉を素材に使うことで、市原に愛され、地域の魅力を再認識してもらえものにしたいという思いからデザインされた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・P.38～39 ・P.40～41 ・P.42～43 ・P.44～45 ・P.46～47 ・P.48～49 ・P.50～51 ・P.52～53
P.40～41		ポスターのデザイン		
P.42～43		情報伝達のデザイン		
P.44～45		[見る・知る・学ぶ] 暮らしの中の文様		
P.46～47		紙を生かしたデザイン		
P.48～49		手で使う道具のデザイン		
P.50～51		素材を生かすデザイン		
P.52～53		[作家の生涯と作品] チャールズ&イームズ		
P.54～55	映像メディア表現	時間を切り取る	<p>○環境保全をテーマにしたポスターやテレビコマーシャルなどを掲載し、自然環境を守ることの大切さを感じ取ることができるよう配慮した。</p> <p>——【第四号】</p>  <p>地球を捨てていませんか? 103×72.8cm 1989年 青葉益輝 【1939～2011 東京都出身】 地球環境保護のためのポスター。皿にのせられた地球が捨てられていることを表現した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・P.41 ・P.62
P.56～57		日常を捉える		
P.58～59		絵や写真を動かす		
P.60～61		映像が作り出す空間		
P.62～63		メッセージを伝える映像		
			<p>○平和を希求する心が育つよう、また、国際社会の発展を願う心が育つよう、平和や国際協力について考えさせるきっかけになるような作品を取り上げた。</p> <p>——【第五号】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・P.7 ・P.23 ・P.41

ページ		図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
P.64	資料	[インタビュー 美術の仕事] 李 禹煥	○巻末に「インタビュー 美術の仕事」という資料を設け、さまざまな分野の作家の仕事を紹介して、生徒の職業への意識や勤労を重んずる態度が養われるように配慮した。 ——【第二号】	・P.64 ・P.65 ・P.66 ・P.67
P.65		[インタビュー 美術の仕事] 須藤玲子	○巻末に、生徒自らが必要ときに活用できる資料を設けて自主・自律の精神をもって学習を進められるように配慮した。 ——【第二号】	・P.68～69 ・P.70～71 ・P.72～73 ・P.74～75 ・P.76～77 ・P.78～80 ・P.81～84 ・P.85～86 ・P.87
P.66		[インタビュー 美術の仕事] 庵野秀明	<div data-bbox="738 484 1198 702" data-label="Image"> <p>■描き始める前に 描く前に、小さな紙にスケッチしておこう。 スケールを使って配置を確認するのよ い。イーゼル と椅子は、描 く対象が見や すい場所に置 いて、描き始 めよう。</p>  </div>	
P.67		[インタビュー 美術の仕事] 岩井希久子		
P.68～69		鉛筆で描く		P.69 「鉛筆で描く」より
P.70～71		透明水彩絵の具で描く	○自然の中の形や色の特徴を複数の図版とともに紹介し、生命や自然を尊ぶ心が養われるように工夫した。 ——【第四号】	・P.76～77 ・P.78～80
P.72～73		アクリルグアッシュで描く	<div data-bbox="738 874 1273 1088" data-label="Image">  <p>バラの花びら 螺旋階段</p> </div>	
P.74～75		絵の具の特徴を知ろう		P.76 「形の特徴を知ろう」より
P.76～77		形の特徴を知ろう		○日本と西洋の作例だけでなく、アジア諸国を始め、さまざまな地域の作例を取り上げることで、我が国だけでなく、他国の文化も尊重する態度が養われるようにした。 ——【第五号】
P.78～80		色の特徴を知ろう	<div data-bbox="738 1255 1060 1625" data-label="Image">  <p>ブルーモスク (アフガニスタン) タイルによる文様で装飾された寺院。円や長方形、五角形などさまざまな形のタイルを組み合わせ、工夫して並べることで、隙間なく全面を埋めている。上の三つの文様はいずれもブルーモスクに使われているものだ。</p> </div>	
P.81～84		美術史年表		P.45 「暮らしの中の文様」より
P.85～86		トピックス美術史		
P.87		美術館について知ろう		
P.88～89		後書き	○時代ごとにさまざまな美術の表現が生まれ、発展する様子を「ルネサンス」「印象派」「ジャポニスム」などのトピックスごとに紹介し、現代にも影響を与える伝統や文化を取り上げた。 ——【第五号】	・P.85～86

編修趣意書

学習指導要領との対照表

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-164	高等学校	芸術科	美術 I	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
38 光村	美 I 304	美術 I		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

1 学習指導要領と教科書の関連

- 教科書全体において美術の幅広い創造活動を紹介することで、美的体験を豊かにし、生涯にわたって美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深められるよう心がけました。

2 教科書の構成

〈全体の構成〉

- 学習指導要領の構成に合わせ、教科書全体をA表現の「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」とB鑑賞の領域、巻末の資料とに分けて整理しています。また、それぞれが一目で分かるようにインデックスで色分けをし、実用的な教科書としての機能性を高めました。巻末の資料は、関連した資料を生徒自身が参考にして表現・鑑賞の幅を広げられることを意図して設けました。

3 各領域の内容と特色

〈「A 表現」について〉

- 「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」それぞれの分野の題材において、多様な表現活動を促せるように、作品の選定や取り上げる活動のバランスと量に配慮しました。
- 題材の中では「主題の生成」と「創造的な表現」が関連づくよう、目標の設定や「制作ノート」の活動、生徒作品などを示し、相互の資質や能力がいつそう高まるように配慮しました。
- 「作家の手法」として、中島千波、舟越 桂、駒形克己、川内倫子の4名の作家が実際に制作する様子を紹介しています。制作の場面を掲載するだけでなく、作家の発想のポイントや、技法上の工夫などを実感しながら学習できるよう配慮しました。
- 「創造的な表現の構想」を育むために、巻末の資料で、技法や用具の扱い方などを取り上げました。

〈「B 鑑賞」について〉

- つくり手の心情や意図を理解するための「作家の言葉」を随所で紹介しています。また、図版のキャプションには解説文を適宜添え、より鑑賞が深まるように工夫しました。
- 「作家の作品と生涯」という題材では、作品の鑑賞に加え、作家の人生や時代背景を俯瞰しながら、鑑賞活動がより深まるように工夫しました。
- 「見る・知る・学ぶ」という題材を設け、日本の美術の特徴や世界の文様の多様性などを紹介しています。日本及び諸外国の美術文化の理解をより深められるように構成しています。
- 「作品鑑賞室」という題材では、作品をより深く鑑賞できるように、拡大図版を裁ち落しで掲載しました。また、生徒への問いかけを記し、作品について考えたり批評しあったり、細部まで鑑賞したりする活動を提案しています。

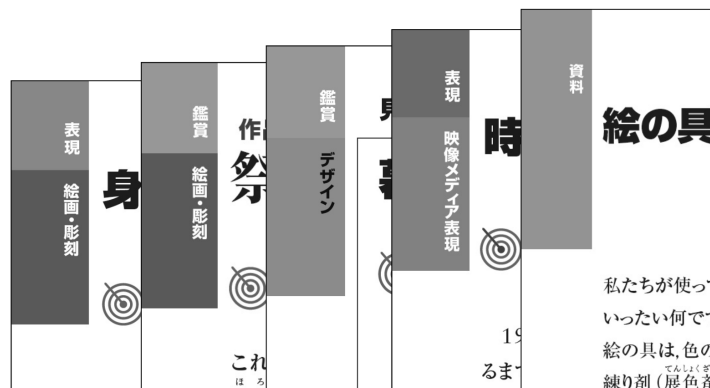
4 学習効果を高めるための、構造上の工夫点

〈目次〉

- 目次は「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」などが色帯で即座に認識でき、また、表現、鑑賞の題材が形で識別できるように、目次の●印は表現、◆印は鑑賞をあらわしている。

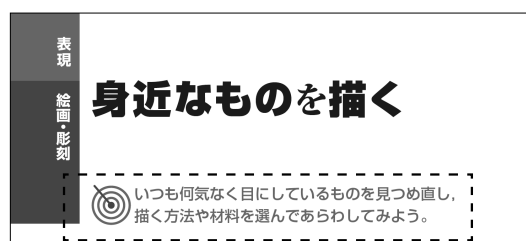
〈インデックス〉

- インデックスは目次と連動しており、「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」の学習指導要領の項目、資料などが一目でわかるデザインとなっています。
- インデックスには、色覚特性の観点から校閲を行い、色や文字を工夫しました。



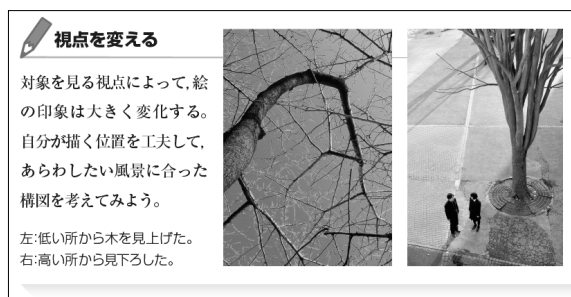
〈目標〉

- 各題材には題材名の近くに「目標」を明示し、身につけたい力や学習のねらいを明確にしました。



〈制作ノート〉

- 表現題材には、作品を発想し、制作する際の参考になる「制作ノート」を設けました。「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」の題材に関連して、発想・構想・技法に関わる情報を紹介しています。



5 巻頭・巻末等の内容と特色

〈巻頭・巻末について〉

- 巻頭巻末では、教科書の編修で重視した「美術を学ぶことの大切さ」が感じ取れるような内容で構成しました。巻頭の片観音ページでは、「美術を学ぶあなたへ」と題した文章と伊藤若沖の「樹花鳥獸図屏風」を取り上げました。美術の学びに対する主体性を喚起し、生涯にわたり美術を愛好する心情を培うことを意図しました。

〈人はなぜ、描き、つくるのだろう?〉

- 学年初めのオリエンテーションの授業での使用を考え、「人はなぜ、描き、つくるのだろう?」という問いかけを基に、縄文時代の土偶から現代の作家の創造活動までを結びつけ、美術の働きや創造活動を行う理由を生徒に考えさせることを意図しました。

6 学習を支える資料の充実

〈インタビュー 美術の仕事〉

- 「インタビュー 美術の仕事」では、李 禹煥、須藤玲子、庵野秀明、岩井希久子の4名のインタビューを掲載し、作者の心情や意図、美術を学ぶ生徒たちに向けたメッセージを紹介しました。

〈技法・形や色彩に関する資料〉

- 「鉛筆で描く」「透明水彩絵の具で描く」「アクリルグアッシュで描く」では、基本的な制作の流れを用具の使い方とともに紹介し、生徒自身の表現の参考にできることを意図しました。

- 「絵の具の特徴を知ろう」「形の特徴を知ろう」「色の特徴を知ろう」は、表現題材と鑑賞題材ともに、必用に応じて活用できるように配慮した資料です。絵の具の資料では、教科書に掲載されている作品の部分図とともに、各絵の具の特徴などを紹介しています。色相環を中心とした色彩の資料は片観音の構造をとっており、そのページを引き出せば、各題材と照合できる図書設計をとりました。

〈トピックス美術史・年表〉

- 「ルネサンス」や「印象派」など6つのトピックスを扱った「トピックス美術史」と、日本及び諸外国の美術史を整理した「美術史年表」を設け、美術文化に関する知識・理解が深まるよう配慮しました。

〈映像メディア表現の資料〉

- 映像メディア表現の特質や表現の効果などが理解しやすくなるよう、ページ下に「パラパラアニメ」を配置しました。

7 今日的な教育課題への対応

〈特別支援教育への配慮〉

- 教科書全体において、色覚特性や特別支援教育の観点から専門家による校閲を受け、すべての人が使いやすいユニバーサルデザインの観点に立った編修とデザインを心がけました。

〈伝統文化の尊重〉

- 日本美術の作品を多く掲載し、伝統文化を育んできた我が国と郷土を愛する姿勢を育成できるよう配慮しました。

〈ICT環境の活用〉

- 作品制作の中でコンピュータを使用する活動や、タブレット端末で制作された作品、スマートフォンを利用した情報伝達のデザインなど、ICT機器を積極的に活用する例を取り上げています。

〈キャリア教育の視点〉

- 生活の中の美術の働きに生徒が関心をもつように、生活や社会との関わりの中で存在する美術を随所に取り上げ、生涯にわたり美術を愛好する心情が育つように配慮しました。

〈人権上の配慮〉

- 「作家の手法」や「インタビュー 美術の仕事」で登場する作家を始め、取り上げる作品の著作者について、性別に偏りがないようにしました。

〈安全・防災教育への配慮〉

- 社会に働きかける美術の試みや災害と関わるデザインなど、安全や防災に役割を果たす美術を取り上げました。

8 その他の内容と特色

〈レイアウト〉

- A4ワイド判の紙面を最大限に生かしたレイアウトを行いました。2ページ大、1ページ大の作品掲載や裁ち落としなどを取り入れ、めりはりのある紙面構成にしました。

〈文字〉

- 読みやすさに配慮して、本文や解説文などの文字を、適切な大きさにしました。
- 教科書上での表記を統一するとともに、未習漢字や固有名詞などには読み仮名を振り、学習がより円滑に進むように配慮しました。

〈製版・印刷・製本〉

- 質のよい原版の使用に努め、印刷にあたっては、製版と印刷の緻密な色調整にこだわり、美術作品や写真などの原画の色彩をできる限り忠実に再現するとともに、原画のもつ質感を再現するようにしました。
- 本文用紙には印刷効果のよいコート紙を採用し、印刷での色彩再現性・鮮明度を向上させています。
- A4ワイド判の紙面を活用できるように、ページを開きやすいあじろ綴じを採用しています。

〈環境への配慮〉

- 環境に配慮した紙と、植物油インキを使用しています。

Ⅱ. 対照表

ページ	題材名等	学習指導要領の内容		
		A 表現	B 鑑賞	
P.2~4	目次／美術を学ぶあなたへ		アウエ	
P.5~7	はじめに 人はなぜ、描き、つくるのだろう？		アイウエ	
P.8~9	絵画・彫刻	身近なものを描く	(1)アイウエ アウ	
P.10~11		植物を描く	(1)アイウエ アウ	
P.12~13		風景を描く	(1)アイウエ アウ	
P.14~15		[作品鑑賞室] 穏やかな光の中で		アエ
P.16~17		[見る・知る・学ぶ] 線遠近法の発展		アウエ
P.18~19		版の表現	(1)アイウエ アエ	
P.20~21		想像してあらわす	(1)アイウエ ア	
P.22~23		不思議な空間をあらわす	(1)アイウエ アウ	
P.24~25		自己を描く	(1)アイウエ ア	
P.26~27		[作家の生涯と作品] パブロ・ピカソ		アエ
P.28~29		土から生まれる彫刻	(1)アイウエ ア	
P.30~31		塊から彫り出す	(1)アイウエ ア	
P.32~33		場所との対話	(1)アイウエ アウ	
P.34~35		[作品鑑賞室] 祭りの喧騒		アエ
P.36~37		[見る・知る・学ぶ] 日本美術の大胆な造形感覚		アウエ
P.38~39		デザイン	文字とデザイン	(2)アイウエ アウエ
P.40~41			ポスターのデザイン	(2)アイウエ アウ
P.42~43	情報伝達のデザイン		(2)アイウエ アウ	
P.44~45	[見る・知る・学ぶ] 暮らしの中の文様			アウエ
P.46~47	紙を生かしたデザイン		(2)アイウエ アウ	
P.48~49	手で使う道具のデザイン		(2)アイウエ アウ	
P.50~51	素材を生かすデザイン		(2)アイウエ アウ	
P.52~53	[作家の生涯と作品] チャールズ&レイ・イームズ			アウエ
P.54~55	映像メディア表現	時間を切り取る	(3)アイウエ アイウ	
P.56~57		日常を捉える	(3)アイウエ アイウ	
P.58~59		絵や写真を動かす	(3)アイウエ アイウ	
P.60~61		映像がつくり出す空間	(3)アイウエ アイウ	
P.62~63		メッセージを伝える映像	(3)アイウエ アイウ	
P.64	資料	[インタビュー 美術の仕事] 李 禹煥		アウエ
P.65		[インタビュー 美術の仕事] 須藤玲子		アウ
P.66		[インタビュー 美術の仕事] 庵野秀明		アイウ
P.67		[インタビュー 美術の仕事] 岩井希久子		アウエ
P.68~69		鉛筆で描く	(1)アイウエ アウ	
P.70~71		透明水彩絵の具で描く	(1)アイウエ アウ	
P.72~73		アクリルグアッシュで描く	(2)アイウエ アウ	
P.74~75		絵の具の特徴を知ろう	(1)アイウエ アウ	
P.76~77		形の特徴を知ろう	(1)アイ (2)アイ アウ	
P.78~80		色の特徴を知ろう	(1)アイ (2)アイ アイウエ	
P.81~84		美術史年表		アイウエ
P.85~86		トピックス美術史		アウエ
P.87		美術館について知ろう		アウエ
P.88~89		後書き		アウエ